

# 製本のススメ

Vol. 186

昨年から連日のコロナ感染話 その昔 宣伝方法を考えていたら「ウイルスのように、相手かまわず赤ちゃんでも、老人でも犬猫に至るまで、目が合ったら宣伝しなさい」と言われたことを思い出しました。ウイルスって物凄い営業力ですね。ちょっとだけ見習おうと思いました。

今回は**とても大切なノド白**の話し

印刷と製本の間には作業上共通の約束事があります。例えば紙目や面付・針クワエなど 1冊の本を造り上げていく上で相互の常識感と知識を共有していかなくてはなりません。その一つに「ノド白」があります。これは印刷構成時のマージン(ノドあき)に加え**並製本(無線綴じ)**でのベタ印刷の際に極めて必要な部分で、また特に注意が必要な部分でもあります。

基本的に**インクの油分と接着剤との相性は悪く、極めて接着力が弱まります。**結果的に製本不良に繋がります。製本加工では当たり前ですが、印刷構成段階では意外と知られておらず 年に何回かトラブルが起こります。ページ全体に色ベタの印刷がある場合には**レイアウトの時点で1.5~3.0ミリ程度の余白(印刷しない部分)をノド側のマージンに加える。この幅をノド白と呼びます。**この数値の誤差はアジロ綴じ・無線綴じの差であり またページ数や紙の厚みによっても変わりますので、企画段階から綿密な打ち合わせが必要です。

本文のみならず、**表紙(表2・表3)全面に本文との見開き柄やベタ印刷がある場合にはノド部分の接着幅(前後各約4ミリ程度)に加え本の束厚を足した分の白(印刷しない部分)が必要です。**表紙を開けるとノドの脇糊からパリッと剥がれてしまう原因の殆どはノド白が無いために起こりますのでご注意下さい。

昨今は顧客からのデータ支給が主流になってきましたが、印刷が終わってからは製本側でも打つ手がありません。さらに再度刷り直しでは納期も遅れ費用もかさみます。ぜひデータの時点でアドバイスや修正をお願いしてください。



## Tea break

コロナで旅行も行けませんね。最近やけに鉄道の番組が多いような気がしますが、見ていると旅気分も味わえて楽しいものです。しかし 意外にも自分たちの地元がテレビに映し出されると良い所のようにみえます。歩きなれた道も目線を変えれば新しい発見が沢山ありそうですね。感染対策をしっかりと済ませたら「ぶらり地元旅」も悪くありません。

弊社 HP は [www.isekiseihon.com](http://www.isekiseihon.com)

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本